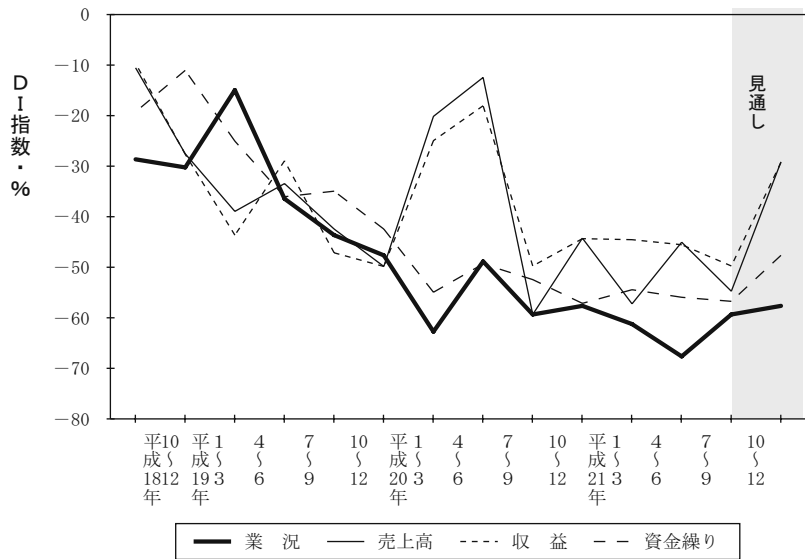


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、貸家業・貸間業で悪化傾向を若干強めました。一方、建売業・土地売買業、不動産代理業・仲介業で悪化傾向を弱めたため、全体としては-59と9ポイント悪化傾向を弱めました。売上額は10ポイント、収益は4ポイント減少傾向を強めました。価格面では、販売価格は16ポイント、仕入価格は4ポイント下降傾向を弱めました。在庫はほぼ適正から不足に転じました。資金繰りは1ポイントわずかに窮屈感が強まりました。残業時間はほぼ適正から減少に転じ、人手は横ばいとなりました。

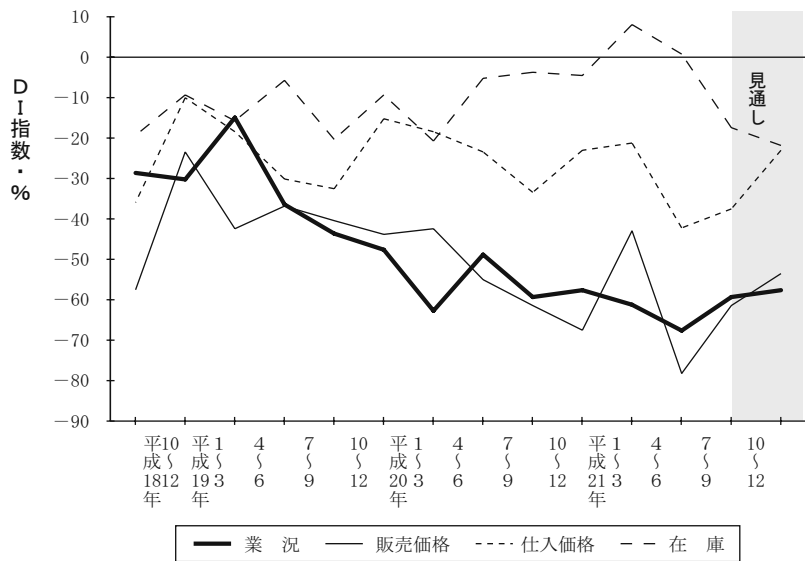
景況の推移



来期の見通し

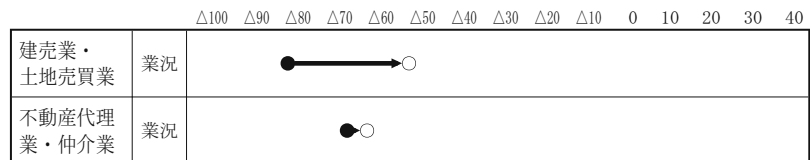
業況は、建売業・土地売買業は悪化傾向を強めるとみていますが、貸家業・貸間業で良好に転じ、不動産代理業・仲介業で悪化傾向を弱めたため、全体としては-58と1ポイントわずかに悪化傾向が弱まるとみています。売上額26ポイント、収益は21ポイント減少傾向を弱めるとみています。価格面では、販売価格は8ポイント、仕入価格は15ポイント下降傾向を弱めそうです。資金繰りは9ポイント窮屈感が弱まるとみています。在庫は4ポイント不足感が強まりそうです。残業時間は8ポイント減少傾向が弱まり、人手は過剰から不足に転じるとみています。

主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年7月~9月) / 前期(21年4月~6月)



調査員のコメント

- 雇用の不安などにより部屋を借りる人が少なくなっていることや、同業者間の競争により売上げ減少している。(不動産仲介業)
- 宣伝・広告に力を入れ、情報収集を強化していく。(不動産仲介業)

経営上の課題点	順位	内容	社数(%)
経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	16社(73%)
	2位	利幅の縮小(2)	11社(50%)
	3位	同業者間の競争の激化(3)	7社(32%)

当面の重点経営施策	順位	内容	社数(%)
当面の重点経営施策	1位	販路を広げる(3)	13社(59%)
	2位	経費を節減する(2)	12社(55%)
	3位	情報力を強化する(1)	11社(50%)

*()は前回順位 * 対象企業総数は22社